

【まとめ】中国出張・旅行の準備チェック。（持ち物、注意事項、アクション。）

ビジネスの関係で中国に出張することになった。初めて中国旅行をする。
そのような方々が、中国行きの準備をするために必要なことを、ここにまとめます。

- ① 日程の妥当性確認。
- ② 注意事項確認。
- ③ 事前手続き処理。
- ④ 訪問先現地情報収集と整理。
- ⑤ 持ち物の準備。
- ⑥ 持ち物以外のその他準備。

① 日程の妥当性確認。

出張・旅行の日程の妥当性を考える上で確認すべきことは、

- a. パスポート所持していない場合、パスポート期限切れの場合は、まずパスポート取得できる日がいつになるかを確認。
- b. パスポートを所持していて期限切れでなくても、査証欄の記載がいっばいで増補が必要でないか確認。
- c. ビザが必要か。ビザ取得日がいつになるか。
- d. 現地行事により、交通の混雑が予想されたり、現地で反日感情が高まる日でないか。リスク回避の検討。
- e. 最近、渡航注意喚起が発生していないか。渡航前に予防接種必要か。リスク回避の検討。
- f. 目的が遂げられるように充分余裕のある期間が確保されているか。
- g. 訪問先は受け入れ可能か。

- a. パスポート所持していない場合、パスポート期限切れの場合は、まずパスポート取得できる日がいつになるかを確認。
→ 外務省ホームページで最新のパスポートの申請手続き内容を確認。
申請手続きに必要な書類を住民票登録している役場で入手して、その後、都道府県の申請窓口申請する。
余裕をみて、2週間は、手続きに要すと考えておくのがよい。

- b. パスポートを所持していて期限切れでなくても、査証欄の記載がいっばいで増補が必要でないか確認。
→ 都道府県のパスポート申請窓口に行き、手続きを実施する。
余裕をみて、1週間は、手続きに要すと考えておくのがよい。

- c. ビザが必要か。ビザ取得日がいつになるか。
→ ビザ種類や代行業者を使うかなど、条件により取得期間がまちまち。
実際に手続きを進めながら、取得めどを探ることになる。

- d. 現地行事により、交通の混雑が予想されたり、現地で反日感情が高まる日でないか。
→ 中国の年間行事、大きな政治会議が現地開催される日、日中間の歴史の重大事件の日を抑えておく。
【中国旅行、出張、駐在者が知っておくべき日】別表参照。

- e. 最近、渡航注意喚起が発生していないか。渡航前に予防接種必要か。リスク回避の検討。
→ 外務省、厚生労働省検疫所のホームページに注意喚起されていないか確認する。

- f. 目的が遂げられるように充分余裕のある日程になっているか。
→ 飛行機、現地での車や列車での長距離移動について、遅れる要素があると思っていたほうがよい。

- g. 訪問先は受け入れ可能か。
→ 訪問相手がある場合。相手の都合を確認しておく。航空券確保、宿泊先確保が可能そうかも調べておく。

② 注意事項確認。

渡航準備前に必ず知っておくべき中国特有の注意すべき事柄がある。

- a. 通信に関する注意事項の確認と対策。
- b. 電源環境に関する注意事項の確認と対策。
- c. 持ち込み荷物に関する禁止事項の確認と対策。
- d. お金に関する注意事項の確認と対策。
- e. 衛生に関する注意事項の確認と対策。
- f. 体調維持、もしもの体調不良の際の対処に関する注意事項の確認と対策。
- g. 現地でのNG行動に関する確認と対策。
- h. 対人関係に関する注意事項の確認と対策。
- i. 時差、気候に関する注意事項確認と対策。
- j. 現地交通と歩きまわりに関する注意事項確認と対策。

a. 通信に関する注意事項の確認と対策。

- 日本で多くの人が利用しているネットサービスやSNSは、中国現地の通常のネット環境ではほとんど使えない。Google、Yahoo、YouTube、LINE、Facebook、Twitter、Instagram、などなどが使用できない。中国国内（特別行政区を除く）で、どうしても以上のサービスを普段どおり使用したいという場合は、「VPN」（仮想プライベートネットワーク）の回線サービスを受けられるようにしておく必要がある。ただし、VPN回線も規制が進んでいるので、いつまで使えるか不明。中国現地では、検索サービスは「百度」、SNSは「WeChat」が普及。百度、WeChatは日本にいても使えるので、これらを使いこなせるようにしておくのも通信対策になる。
- 中国現地から日本へ電話する：
00（国際電話識別番号）+81（日本の国番号）+局番（最初の0を取る）+相手の電話番号
日本から中国へ電話する：
（国際電話会社アクセス番号）+010（国際電話番号）+86（中国の国番号）+相手の電話番号（最初の0を取る）
自分が契約している通信キャリアの国際電話の際のサービス内容を確認しておくといよい。
- 日本から持ち込んだ携帯電話のモバイルデータ通信設定。
海外ではデータ通信費が割高なので、日本国外ではモバイルデータ通信はオフにして、データ受信はWifiに制限するのが基本。
- 頻繁に中国に行くようであれば、SIMフリーの電話を購入して、Amazonなどで事前に中国SIM購入してセットする。現地SIMカードを買う方法もある。（現地購入は通信会社でパスポート提示必要。手間はかかる。）

b. 電源環境に関する注意事項の確認と対策。

- 中国の電源電圧は220V 50Hz。ACアダプタに「100-240V」と書いてあるものは使える。日本の100V専用の電気製品を中国で使用するには変圧器が必要。電圧が高いので、ほこりなどを介して異極間の短絡（スパーク）により火花が発生することがあるので注意。異極間短絡させると、部屋のブレーカーが落ちてしまうこともある。
- 中国のコンセントは穴が二又のものと三又のものがある。二又の穴に日本のプラグが適合する。特別行政区の香港とマカオは、中国内地のコンセントの形状はまったく違う形。香港とマカオで日本の電気製品を使用するには、変換プラグが必要。（「世界のコンセント形状」で検索確認。）
- 宿泊先にある電源コンセントは設置箇所が限られていて、複数機器の充電など不便を感じる場合がある。頻繁に中国に行くようであれば、現地のスーパーやコンビニで、延長コードを購入し、毎回、もっていく。

c. 持ち込み荷物に関する禁止事項の確認と対策。

- 液体、クリーム、充電機及び充電機付き機器、発火物、スプレー、刃物、など携行に要注意。
国土交通省のホームページ、空港のホームページ、航空会社のホームページなどで最新注意喚起内容を事前チェックする。
あわせて、預入荷物の重量やサイズ制限について、航空会社のホームページで確認する。
船旅の場合は、フェリー会社のホームページで確認する。
持っていくものについて、預入荷物とするか、持ち込みするか、別送とするかの判断材料にする。
- 中国では、電車で乗車するにも荷物検査がある。
荷物を危険物と見なされたりして、駅構内への持ち込み拒否される場合がある。
荷物内容によっては、電車移動を断念しなければならないことがあるので注意。

d. お金に関する注意事項の確認と対策。

- 5千ドル相当を超える外貨（円やドル等）を持ち込む場合は、税関で申告が必要。
- 初めて中国に行く場合は、日本であらかじめいくらか通貨両替して、そのうえで、中国での決済や現金引き出しが簡単なクレジットカードを入手し、持参することをお勧めする。
最初は、両替であたふたしないようにしておく。
予想外の出費に備え、現地で使えるカードの準備は必須。
頻繁に中国に行くようであれば、スマホのアプリ決済方法を勉強して導入。
- 最新の為替状況を確認しておく。
1元は、日本円で何円か。1万円は中国人民元で何元か。を頭に入れておく。
- 客からの値切り交渉をあらかじめ見越した表示価格設定、外人観光客をターゲットにしたポタタクリ価格、および、にせものに注意。正しい相場情報を頭にに入れておく。

e. 衛生に関する注意事項の確認と対策。

- ひと昔前に比べ都市部や観光地はずいぶん衛生面への配慮が進み環境は良くなった。
ただし、都市部や観光地を外れると、まだ、衛生面で良くない環境がある。
- 外国人の利用が多い食事処は、食あたりの心配は少ない。
ローカルの食事処で、火を通さない生もの、火が十分に通っていない料理は避ける。
口に入れたときに、何か違和感を感じたら、すぐ吐き出すこと。
- 水道水は飲まない。飲料水として販売されているものを飲むこと。
- 現地調達でも良いが、ウェットティッシュや除菌剤を持ち歩く。

f. 体調維持、もしもの体調不良の際の対処に関する注意事項の確認と対策。

- せっかく中国にいるから食事は三食ローカル食という考え方もあるが、日本人は、脂っこいもの、辛いものに対する耐性が低い。体調維持を考えると、適度に食べなれた日本食を挟みながら、現地の食事を楽しむことを推奨する。
- 寝床が変わると眠りに着きづらい人がある。
海外にいる緊張もあるので、そのような人は、さらに、余計に眠れないことが考えられる。
就寝時間前に頭を空にしてぼーっとしながら、ストレッチするなど、いつもより早めに脳スイッチをOFFにすることを心がける。
寝られないとあせっては、ますます寝られなくなる。
完全に寝られなくても、横になって目をつぶることで、十分に頭と体を休められているから大丈夫と考えること。
- 万一の体調不良に備え、解熱剤、総合風邪薬、下痢止め、整腸剤、乗り物酔い対策、二日酔い対策、傷薬をピルケースなどに入れて、持ち歩く。
- 現地で病院に行く必要が発生したら、海外旅行保険の契約会社、キャッシュカード会社の日本語サービスセンターに電話相談する。電話連絡先を事前に確認して把握する。

g. 現地でのNG行動に関する確認と対策。

- 軍事、警察に関わりそうな場所で写真撮影は行わない。逮捕拘束される。
- 公衆の場で、まわりの中国人は日本語わからないだろうと考えて、日本人同士で中国の欠点などの話をする。日本語がわかる中国人、都市部では意外に多い。
- 現地で政治的にデリケートな話はしない。そのようなキーワードでネット検索しない。
- 無礼、差別的、威嚇的、乱痴気な態度や行動をとらない。
日本人一人の悪態が、日本人全員のイメージを下げることになる。
中国現地では、あなたは、日本人代表であることを忘れずに。

h. 対人関係に関する注意事項の確認と対策。

- 人を信頼しすぎない。どこでも善人、悪人いる。中国は人が多いので悪人も多いと考える。
- かわいそうと同情しすぎない。体が不自由、お金失くして電車で帰れない、食事をしていない、などなど。
- 中国人は、親しい関係は、遠慮のない関係と考える傾向がある。
親しき仲にも礼儀ありというのは、日本的な感覚。
そのような感覚で接すると、いつまでたっても打ち解けてくれないと誤解されることがある。
先の、人を信頼しすぎないという話と相反するが、友達と認める相手であれば、多少あつかましいと思うことも許しあい、互いに利益や便宜を与え合う。

i. 時差、気候に関する注意事項確認と対策。

- 時差1時間。日本時間が中国時間より1時間進んでいる。中国時間が日本時間より1時間遅い。
現地についたら、腕時計は現地時間に設定をあわせる。
国際電話かけるときは、先方は食事どきの時間かどうかなど配慮する。
- 中国は広大であるので、同じ中国でも、地域により大きく気候は異なる。
行先の天気予報など事前にチェックを行い、防寒、防暑などの視点で持ち物を検討する。
日本気象協会で世界の天気予報も公開している。

j. 現地交通と歩きまわりに関する注意事項確認と対策。

- 車は、左ハンドル、右側通行。
車は赤信号でも右折して良い。やたらクラクションで警告する。交通量多い割に信号が設置されていない場所がある。走行エンジン音を出さず、音もなくやってくる電動バイクが多い。1台のスクーターに一家全員四人乗りしている。赤信号でも車いらないと思えば道路を渡る。道路が渋滞すれば、道路の路肩走行。
などなど。日本と随分ルールも異なり、交通マナーに対する感覚も違う。
日本にいるとき以上に、周りをよく見て事故に巻き込まれないように注意する。
- 建築物のエントランス周りの歩行面がツルツルの石材で作られていることが多い。
雨が降ると、滑りやすくて危ない。
濡れたツルツルの石材でも滑らない靴で行動することを薦める。

③ 事前手続き処理

- パスポート、ビザ関係の申請手続きの実施。
- 現地使用に便利なクレジットカードを新規作成する場合は、申込み実施。
- マイルカードなど、特典が期待できるメンバーズカードがあれば申し込み実施。
- 出張の場合は、所属組織への出張申請手続きの実施。出張、旅行とも、家族に行動予定を告げる。
- 旅行会社が全て手配を一括で実施する場合を除き、飛行機など渡航のための予約手配、宿泊先の予約手配を実施。
海外保険の契約実施。
- 訪問先に訪問日確定の旨を伝える。訪問先に依頼したいことがあれば伝える。
- お金の準備。
- 別送で事前に発送すべき荷物があれば、国際郵便などで発送。

④ 訪問先現地情報収集と整理

- a. 中国国内で利用する交通機関の情報収集と経路の確認。
 - b. 中国国内移動の各ポイントの地図情報収集。
 - c. 宿泊先ホームページがあれば、施設やサービス概要を確認。
 - d. 中国現地で万トラブル発生したときの連絡先、連絡がつく時間帯の確認。
 - e. 出入国カードの書き方の確認。
 - f. グルメ、土産、遊興施設など、せっかくの機会であるので興味あることはしっかり事前に調べる。
- ※ 調べたことはファイリングやPDFデータ化して持っていけるようにする。

⑤ 持ち物の準備

a. 必需品。

- ・パスポートとパスポートの控えのコピー。
- ・チケット、チケット予約控え。
- ・海外旅行保険証。
- ・予約済証明。(ホテルなど。)
- ・日本円現金。
- ・中国現地通貨。
- ・クレジットカード。
- ・以前、現地で使用した交通カードなど、各種カード類。
- ・普段から常時携帯しているもの。
- ・風邪、下痢、すり傷、酔い対策の医薬品、常時服用している薬やサプリメント。
- ・日程、行動計画がわかるもの。
- ・万一の緊急連絡先がわかるもの。
- ・液体の機内持ち込み用ジップロック(ファスナー付きビニール袋)。

b. 仕事などで使う重要な荷物。

- ・PC、タブレット及びその周辺機器。
- ・携帯電話と充電器。
- ・レンタルWifi、現地SIM。(必須ではないが検討はすべき。)
- ・カメラと充電器。(必須ではないが検討はすべき。)
- ・ボイスレコーダー。(必須ではないが検討はすべき。)
- ・延長コード。(現地仕様のもの、過去に購入していれば荷物に入れる。)
- ・香港、マカオいずれかに滞在もしくは経由の場合は変換プラグ。
- ・名刺。(多めに。)
- ・業務資料。配布予定の資料、カタログ、パンフレット、サンプル、会社案内。
- ・筆記用具、メモ帳、封筒。(ボールペンは入国カード記入のとき使う。メモ帳は筆談のときも使う。)
- ・電卓。(買い物の価格交渉のときも使える。)
- ・取引先、現地同僚へのお土産。(必須ではない。検討。)

※出張ミーティングや商談の注意。

プロジェクターを使用する場合は、先に先方に使用したい旨を事前告知しておく。

配布予定資料はあらかじめ配布すべき数の見当をつけておく。事前にコピーして数量確保しておく。

※土産の注意。

取引先で土産を渡す場合、皆でわけてくださいというプレゼントの方法はケチと思われる。

つまらないものなどの言い回しの謙遜も不要。偉い人には箱ごとどうぞと渡す。

渡すものによっては、その地方では縁起の悪い贈り物になることがある。(例：ハンカチ。泣くを連想。)

比較的日本で有名な銘菓、例えば「白い恋人」「東京バナナ」「おたべ」などが無難。

c. 機内など長距離移動を快適にする持ち物。

- ・使い捨てスリッパ。（靴を脱いでリラックス。）
- ・ネックピロー（トラベル枕のこと）。（うたた寝したい場合。）
- ・アイマスク。
- ・耳栓。
- ・機内の乾燥対策。マスクやリップクリーム。
- ・ナイロンパーカー。薄くて、暖かいので便利。
- ・口さみしき対策。ガムや飴など。
- ・趣味のもの。書籍、ヘッドホンなど。

d. 現地滞在時に使用する荷物。

※ホテル備え付けのアメニティ用品で済むものは、荷物に含めなくて良い。

- ・歯ブラシ、歯磨き粉。
- ・石鹸、ボディソープ、シャンプー、リンス。
- ・化粧品。
- ・洗顔料、メイク落とし。
- ・整髪料、整髪器。
- ・シェバー。
- ・生理用品。
- ・目覚まし時計。
- ・ビニール袋、圧縮袋。
- ・洗濯洗剤、洗濯ひも、衣類消臭剤。（手洗い洗濯で衣類の荷物を軽くすることができる。）
- ・雨具。（現地調達でも良い。）
- ・日焼け止め、虫除け。（行先現地の季節と気候をもとに判断。）
- ・オペラグラス。（景観の良い観光地訪問、観劇などの予定がある場合。）

e. 衣類、防寒、防暑。

- ・下着、靴下。（滞在日数+1が数量の目安。）
- ・着替え。（滞在日数ぶんが目安。）
- ・フォーマルウェア。フォーマル靴。（訪問先による。）
- ・ルームウェア。（ちょっとした外出ができるジャージが便利。）
- ・防寒対策：帽子、ダウンジャケット、手袋、マフラー、耳あて、貼るホッカイロなど。
- ・防暑対策：帽子、扇子、汗拭きタオルなど。（ホテルにプールがある、海に行くなどの場合は水着も。）

f. スーツケース、カバン。

- ・スーツケース。
- ・スーツケースベルト。
- ・ネームタグ。
- ・割れ物、液体漏れ対策の包装。緩衝材。密閉袋。
- ・機内持ち込みをするバッグ。
- ・出張者は現地業務時に使用するカバン。
- ・ちょっと外出用のポーチやバッグ。
- ・洗面、化粧バッグ。
- ・エコバッグ。帰りの土産など荷物が増えたときに使用するバッグ。

⑥ 持ち物以外のその他準備。

- a. PC、タブレット、スマホで中国語入力検索できるようにする。
各ハードの基本設定で言語の追加を行う。
- b. 普段使用しているメールやSNS機能の代替手段の確保。
- c. 飛行機関連アプリ、地図アプリ、翻訳アプリ、辞書アプリなど現地行動に役立つアプリの入手。
- d. 持参するPCやスマホにある重要データはバックアップをとっておく。
- e. 会食がある場合は中華テーブルマナーも理解しておく。
- f. すこしでも中国語のカタコト会話力は身につけておく。
(言葉が通じないのがどうしても不安な場合は、アテンドサービスを事前に手配。)

以上。

